

大分工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	キャリアデザイン
科目基礎情報					
科目番号	R02M425		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	機械工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	(教科書) なし／ (教材) 適宜, 資料を配布する.				
担当教員	軽部 周				
到達目標					
(1) 工場見学, 研修旅行により, 企業等における技術者・研究者等の実務を認識できる. (課題レポート等) (2) インターンシップの説明会により, 企業学習の目的を理解できる. また, 報告会を通して, 複数の企業等において実際に行われている企業活動を具体的に理解できる. (発表および聴講) (3) SPIの模擬試験を受けることにより, 自己の能力を分析することができる. (SPI試験)					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	技術者・研究者等の実務を知り, それをこなすために技術者が備えるべき能力を認識できる.		企業等における技術者・研究者等の実務を認識できる.		企業等における技術者・研究者等の実務について十分に認識できない.
評価項目2	企業学習の目的を理解し, 高専での学習の意義を認識できる.		企業学習の目的について理解できる.		企業学習の目的について十分に理解できない.
評価項目3	実際に行われている企業活動を知り, 多くの企業が多面的に関わりあっていることを理解できる.		企業等において実際に行われている企業活動を具体的に理解できる.		実社会で行われている企業活動について具体的に理解が十分にできない.
	自己の能力を分析することにより, 自ら明確にした将来像に向けた学習を実践できる.		各種キャリア教育を受けることにより, 自己の能力を分析することができる.		自己の能力について十分に分析することができない.
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科目では, 高専での学習により得た知識が, 企業や大学等でどのように利用・活用されるかを理解し, 自身の将来のありたい姿を明確化できることを目的としている. また, インターンシップや共同教育等を通して, 企業および企業人としての社会的責任, 社会人として自身が備えるべき能力を認識できるよう自己の研鑽を目指す. さらに, 卒業後も社会人として継続的に学習し成長することを認識できる思考を養う. (科目情報) 関連科目 特別活動, 校外実習, 実務実習				
授業の進め方・方法	本科目は, MCC (モデルコアカリキュラム) のⅧの態度・志向性の到達目標を達成するための授業である. 講話・講演等の聴講, 企業等の実務体験や現場見学, および演習を通じて目標とする到達レベルに達し, 未来志向性・キャリアデザインや企業活動理解などの能力を養う. (評価について) 成績としての評価はつけない.				
注意点	(履修上の注意) 各授業項目について, 実施することの意義の理解に努めること. また, それに伴って自己の涵養に努めること. 実施する際には事前に周知するので, 普段から授業担当者および所掌の係からの連絡について電子掲示板等を常に確認すること. (自学上の注意) 自身の理想とする将来像を見据えながら取り組むこと.				
評価					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	教務・教育プログラム説明会	教務および教育プログラムについて理解し, 自身の将来を考え, 一年間の学習を計画することができる.	
		2週	インターンシップ報告会	企業学習した内容について相互に報告し, 各企業の社会的役割を理解できる.	
		3週	進路説明会	進路説明会により, 自身の将来および進路について具体的に考えることができる.	
		4週	OBによるキャリア講演会	高専OBによる講演会を通じて, 企業活動の詳細と学習との関連を理解できる. (1回で2週分)	
		5週	同上	同上	
		6週	SPI試験1	SPIの模擬試験を受け, その結果から, 自己の能力を分析することができる.	
		7週	SPI試験2	同上	
		8週	SPI試験3	同上	
	2ndQ	9週	SPI試験解説	同上	
		10週	新素材セミナー	大学教員・高専教員の研究への取組について, 講演を通じて理解できる.	
		11週	教務・教育プログラム説明会	教務および教育プログラムについて理解し, 自身の将来像をイメージした, 最終学年の学習計画を立てることができる.	
		12週	大学出前授業	大学の研究者による出前授業を通じて, 大学で学ぶ研究についてのイメージを深めることができる.	
		13週	特別講演会(1)	企業関係者による講演会を通じて, 企業活動の詳細と学習との関連を理解できる.	

後期		14週	特別講演会(2)	企業関係者による講演会を通じて、企業活動の詳細と学習との関連を理解できる。
		15週	研究室説明会	各研究室の研究内容を理解し、自身の将来に必要な能力を考え、卒業研究の計画を立てることができる。
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前7,前8,前9,前10,前12,前15
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	前7,前8,前9,前10,前12,前15
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	前7,前8,前9,前10,前12,前15
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前7,前8,前9,前10,前12,前15
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	3	前1,前7,前8,前9,前10,前12,前15
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	前3,前4,前5,前6,前13,前14
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前2,前4,前5,前6,前13,前14
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前2,前4,前5,前6,前13,前14

				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前2,前4,前5,前6,前13,前14
評価割合						
		履修		書類作成		合計
総合評価割合		60		40		100
基礎的能力		0		0		0
専門的能力		0		0		0
分野横断的能力		60		40		100